



特集

これはわかる！ 実践！

ストーマ装具の選択



特集にあたって

企画編集 石澤美保子

ストーマケアを考えると、身体的、心理的、社会的側面をとらえて全人的な視点で看護をしなければならないことは当然ですが、身体的側面においてまず重要なことは、適切なストーマ装具の選択です。ストーマ造設術後に実施される局所管理の第一歩として、ストーマ装具選択があるのです。なぜ重要かという点、それはいうまでもなく適切な装具が使用されていないと、排泄物の漏れによって社会生活が損なわれ、ストーマ粘膜や周囲皮膚の障害が発生し新たな疾患が生じてしまうからです。このことは、ストーマケアに携わる者であれば当然わかっていることで、そのために日進月歩のストーマ装具についての知識習得に努力を続けています。

このような臨床現場のニーズもあり、ストーマ装具選択に関する書物は今までにもたくさん出版されています。またこれまでは、ストーマ装具選択に関してエビデンスはほとんどない状況であったものが、最近では日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌に量的研究の結果などを合わせた報告がなされるようになってきています。

現在、日本国内で入手できるストーマ装具数は300を超え、規格違い（サイズ・色）も合わせると1000をはるかに超えている現状から、ストーマ装具の一つずつをとらえて適応になるケースはこれだという理解の仕方はしません。ケースを集約して共通項目を見出し、その共通項目に対応できる装具はこの範囲である、という考え方が短時間で装具選択を習得する近道でもあります。むろんなかにはこの装具はこのケースを管理するためにある、といった特徴的なものもありますが、それは経験を重ねていくなかで身につけていくと思われまます。

本特集では、ストーマ装具選択に関する内容を網羅的に示す内容ではなく、読んでいただいた方が「ストーマ装具選択には、まずこのポイントをおさえることができればよいのだ」と理解していただける内容、また後輩などを指導する立場にある看護師の方であれば、どのポイントで指導すると伝わりやすいのかのヒントになる内容を目指しました。「実践！ストーマ装具の選択」というテーマに沿って、「基本編」として装具とアクセサリーについての一般知識、装具を選択するための最低限必要なポイントを解説し、手術直後から退院まで、そして比較的頻度の高い各種合併症をまとめました。また「応用編」として、手術後何年も経過して管理が安定していると思っている患者さんであっても、看護師が装具選択に悩む可能性の高い項目について取り上げました。6名の臨床現場でご活躍されているご専門の先生方から、事例を提示しながらポイントをわかりやすくまとめていただきました。皆様の明日からのストーマ装具選択の一助になれば幸いです。

Profile 石澤美保子 (いしざわ みほこ)

奈良県立医科大学 医学部 看護学科 教授, ET/皮膚・排泄ケア認定看護師

1983年 大阪キリスト教短期大学 卒業, 1986年 近畿大学附属高等看護学校 卒業後、近畿大学医学部附属病院 勤務, 1992年 渡米し、オハイオ州 クリーブランドクリニック ET スクール 修了, ET 認定証 取得, ブリストルマイヤーズ・スクイブ (株) コンパテック事業部 課長, 2007年 和歌山県立医科大学 保健看護学部 講師, 2008年 大阪大学大学院 保健学専攻 博士後期課程 修了, 博士 (看護学) 取得, 2009年 大阪府立大学 看護学部 准教授を経て、2011年より現職。資格・所属学会：皮膚・排泄ケア認定看護師 (2014年 [15年目] 資格更新), 日本褥瘡学会 理事, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 評議員, 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 評議員ほか。

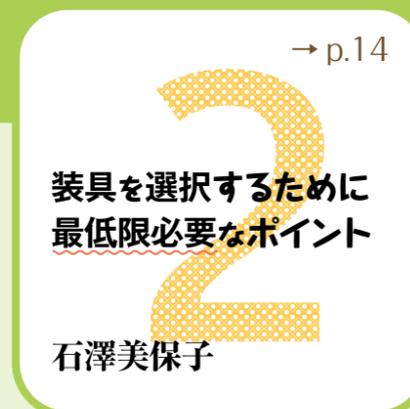
基本編



→ p.4

装具の基本、
アクセサリーの基本
—形と皮膚保護剤の性質—

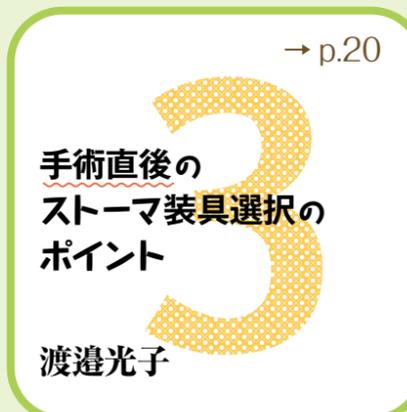
西林直子



→ p.14

装具を選択するために
最低限必要なポイント

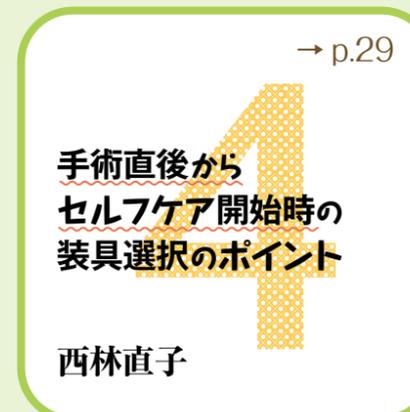
石澤美保子



→ p.20

手術直後の
ストーマ装具選択の
ポイント

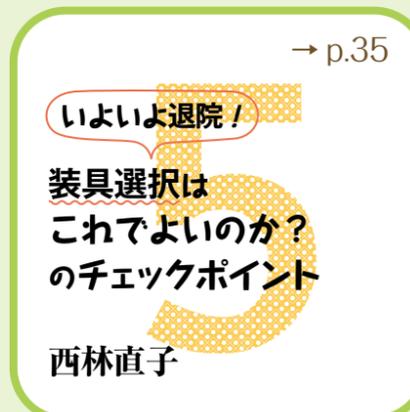
渡邊光子



→ p.29

手術直後から
セルフケア開始時の
装具選択のポイント

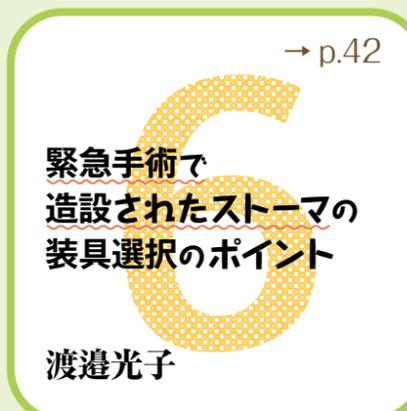
西林直子



→ p.35

いよいよ退院！
装具選択は
これでよいのか？
のチェックポイント

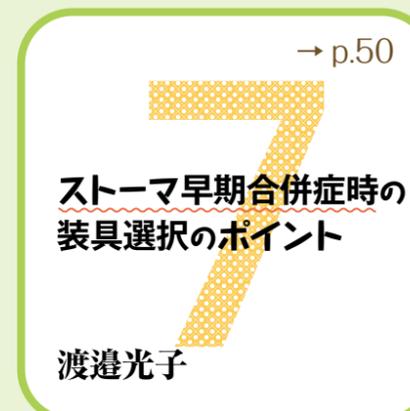
西林直子



→ p.42

緊急手術で
造設されたストーマの
装具選択のポイント

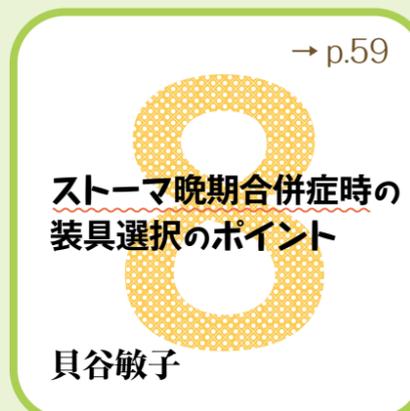
渡邊光子



→ p.50

ストーマ早期合併症時の
装具選択のポイント

渡邊光子



→ p.59

ストーマ晚期合併症時の
装具選択のポイント

貝谷敏子